

### 3 6 主任として、この一年

むつ営林署 高橋 堅一

#### 1 はじめに

私は、昭和29年に大畑営林署に採用以来、同署で担当区事務所及び製品事業所の補助員として通算約30年間、当時それぞれの主任の指導の基で勤務してきたが、一昨年（平成3年）意を決して普通科研修生となり、同年12月にむつ署の製品事業所主任として着任した。

新任の事業所主任として夢中で過ごしたこの一年の事業実行を振り返って見ることにより、今後のよりよい事業実行につなげたいと思った。

#### 2 田名部製品事業所の概要

表一 1 平成4年度 田名部製品事業所の概要

区 分	内 容
職 員 数	定員内 5人（主任1、事務系2、行二系2） 基 職 13〃 計 18〃
セット数	夏冬 2セット
主要機械	トラクタ 2台 フォークローダー 1〃
資材内容	主としてスギ、アカマツ、クロマツ人工林 (0.56) (0.47) (0.41) ( ) は立木本当たり材積 m <sup>3</sup>
事 業 地	梶沢山国有林 8 林小班 3
そ の 他	①生産休止期間 6～8、11月の 4ヶ月 ②労働災害の最終発生 平成2年12月14日 ③平成5年2月1日現在 無災害日数 779日

表一 2 平成4年度 田名部製品事業所の月別生産計画量  
及び実行量との比較 (全幹集造材量 単位 m<sup>3</sup>)

月 区分	4	5	6 ~8	9	10	11	12	1	2	3	計
計画量	680	650	(休止)	710	720	(休止)	660	600	740	740	5,500
実行量	682	653	0	653	802	0	641	591			
達成率	100	101		92	111		97	(100) 99			

( )は累計達成率

表一 3 年度別生産性比較

区 分	物的生産性 (m <sup>3</sup> )			相对生産性		備 考
	平 2	平 3	平 4 見込	平 2	平 3	
むつ暑	2.56	2.50	2.88	149	141	
局平均	2.06	2.00		124	119	

### 3 研究の方法及び経過

自分のこれまでの業務経験や普通科研修で習得した事柄をもとに、署の指導を受けながら取り組んだ業務のいくつかを取り上げて考察した。

#### (1) チームワークづくり

事業所主任の職務は、作業仕組や功程管理、林産物管理、機械管理、勤務簿等各種帳票作成、計測業務、安全管理、等ありますが、一番大事なのはチームワークにあると思っている。

着任時、当時の事業課長から「事務所を先に開けるくらいの心得が大切」と教えられたことを基として

- ア 事務所は真先に開ける。
- イ 人運車運転手との会話が、まず始まる。
- ウ 現場ミーティングで職員からの情報がよく出る。
- エ 昼食の弁当は一緒にとる。

等を心掛けたことから対話が進み、これが事業所職員の手作りの事務所休憩所の改築や署で募集した安全標語に多数が応募したこと、安全工夫賞の受賞などに表れたと確信している。

#### (2) 労働災害の防止

当事業所は平成2年12月14日に労働災害が発生して以来「0」災を続け、1月末日で営林署は779日の無災害となっている。

これは、結果として表れた数字ではあるが当事業所の職員も皆がチームワークづくりに懸命な努力をしたことに加え、

- ア 主任の指示をよく聞いてくれること。
  - イ 作業計画図、作業配置図等必要な掲示は時期を失せず作成していること。
- などを通じて基本をしっかりと良く守っていることにあると思われる。

#### (3) フォークローダーの導入

従前は各セット共に、担ぎ出しもある人力巻立であったが、今年度から1セットにフォークローダーを導入した結果、次のとおりの成果があった。

表 — 4 フォークローダーの導入についての評価

項 目	導 入 前	導 入 後
作業方式	担ぎ出し、人力巻立	①セット構成人員が1名減となり、生産性の向上が図られた。
有利販売	①場所が限られ、大きな桧とならざるを得なかった ②落とし巻立が主となり、積み込みに不評。	①トラックの積載単位に応じた個別桧積ができ、有利販売につながった。 ②土場が効率的に使える。 ③買受者に好評。
セットの反応		①労働が軽減された。 ②より安全な作業の確保につながる。 との評価

当事業所は保護樹帯の択伐が多く、周囲が造林地であることから他のセットにも導入を希望している。

(4) 葉枯らし材の実行結果について

表 — 5 葉枯らし材実行の概要

項 目	内 容
樹 種	スギ 51年生
生産量	418 m <sup>3</sup>
伐倒期間	7月 (葉枯らし期間 約50日)
集造材期間	9月
含水率	含水率100%以上の材が 60%

表 — 6

## 葉枯らし材実行についての考察

区分	4年度の実行結果の反省	5年度に向けての取組
箇所の選定	日当たりは良かったが凹地は伐倒方向の規制があった。	<p data-bbox="852 539 1353 748">「巻枯らし方式により、伐倒方向の規制、集材路作設の規制がなくなるほか、均質化、虫害防止が図られる。」</p> <p data-bbox="852 763 1267 801">と考え、取り組んでみたい。</p>
伐倒の仕方	集材路が沢浴いとなり、結果として下側に伐倒木が集中し乾燥の妨げとなった。	
葉枯らし期間	生産休止との見合いから梅雨期が含まれ虫害の心配があった。	
集材路作設	集材路を沢浴いとしたため、伐倒木が集中し結果として乾燥の妨げとなる一因となった。	
結果	今年の葉枯らしは失敗だった。	

## (5) 採材の工夫について

当署の生産対象樹種は資源事情から、スギ、アカマツ、クロマツが主体とならざるを得ず、中でもアカマツ、クロマツは地元需要が殆ど望めないことから青森県南、岩手県北の買受者の開拓あるいは維持していかなければ販路の確保ができない。

このため、買受者の意見を聞きながら次のような採材の工夫を行った。

表 7 採材を工夫した点

樹 種	工夫した点	考 察
スギ	長級 1.20m (30上) の採材 (採れないものは「こねり鉢」 の材料)	腰板材として需要が出た (公売)
アカマツ クロマツ	タイコ材 (単曲) の採材 長級 3.0、4.0、5.0 m 径級 16 ~ 22 cm	① 従来の1.80、1.90mの採材と比 べm <sup>3</sup> 単価で3割の増。 ② 最近の公売で107%で全落。
クロマツ	長級1.90m (パルプ) ↓ 長級2.20m (一般材) に改めた	① m <sup>3</sup> 単価で5割の増。 ② 完売。

なお、今実行している天然アカマツの採材についても買受者の意向を聞きながら有利販売に努めたい。

#### (6) 事務改善の取組

現在、現場職員は分散システムにタッチできないので当事業所では署の指導を受け、極積野帳のまま本署に送付し、本署で入出力した帳票の回付を受け入力数値をチェックしたうえで、これを使用して「林産物品生産完了報告書」を完成させ署長あて提出することにより事業所での手計算による材積計算は全くなり、この分現場業務に従事できることになった。

#### 4 おわりに

この一年を振り返って、無災害により計画生産量を確保できる見通しがつき、目標をほぼ達成できたものと考えているが、葉枯らし乾燥材など予定どおりできなかったものもあるので、それぞれの原因や手法が自分なりに大体つかむことができたことから、これらの経験をもとに来年度に向けて、さらに無災害の継続に努めつつ、計画生産、きめ細かな採材・選別・極積、葉枯らし材生産などに積極的に取り組みより有利な販売に努めたい。